



手にいれたいもの

「人のものをとってはいいけません」、私たちは小さいころからそう教えられてきましたし、そう伝えながら過ごしています。こういった考えがあるからこそ、私たちは安心して生活することができているのだと思います。

でも、もしどうしても手に入れたいものや欲しいものがあったら、皆さんだったらどうしますか？それが単なる「物」なのか、「土地」なのか、「特別な何か」なのか、「名誉や名声」なのか、「恋焦がれている相手」なのか、挙げたらきりがありません。手に入れるためには、一生懸命努力したり、相手がいることであれば相手と話し合いを重ねたり、手に入れるための何らかのプロセスを重ねていくもので、決して「とっちゃ

え」とはならないはずです。一方で、手に入れたいものがある時は、「何故ほしいのか、なぜ手に入れたいのか」何か理由があるはずで、理由によっては周りからの応援を得られることもあるかもしれませんし、逆に「そんな自分勝手な理由」と非難されることもありえます。

他にも周りは関係なく、自分だけが努力を重ねていくことで、手にいれたいものに近づけることができる、ということもあるかもしれません。でも努力を続けていくには、実質的にも心理的にも、周りの人や環境の力が大切になってくるものです。

2月にロシアのウクライナ侵襲が始まってから、半年が過ぎようとしています。メディアを通して日常的に痛ましい様子を目にし、心が苦しくなるような日々が続いています。そして、「どうしてこんなことになってしまったのか」と、歴史をさかのぼってみたい、他に手立てはなかったのか、と自分なりに考えを巡らせることもあるでしょう。それぞれが考えを巡らせ、それを誰かと共有していく過程においては、どういった視

点から物事をみているか、手がどう考えているか、といった「違い」が生じるものです。「違い」があることによつて、例えばそれが同じ結論に至るものだとしても、そこに至る過程において、「そういう考えもあるのか」「そういう見方もあるのか」と、自分とは違う「気づき」や深まりがうまれます。自分の考えや知見だけでは、狭い範囲から抜け出すことができず、もしかするとより良い方法や新しいチャンスを見逃してしまうこともあるかもしれません。何かを手に入れたいとき、「自分勝手な理由」で突き進んでいくと、周りが見えなくなり大きな失敗や過ちに繋がってしまうことがあります。私たちは普段から、こういったことを考えて過ごしているわけではありませんが、今世界で起きていることに心を寄せ、身近なこととして考えを巡らす機会にしてみたいのかもしれないですね。



過去の「こころぼ」は、町ホームページからご覧になれます。

歴史民俗資料館

秋季特別展

「ポール・ジャクレー展」
軽井沢を愛した
フランス人浮世絵師
ポール・ジャクレー
木版画展

生涯のほとんどを日本で過ごしたポール・ジャクレー。その木版画作品の中から20点余りをご紹介します。

と き 9月1日(木)から
10月31日(月)まで

開館時間 9時から17時まで
(入館は16時30分まで)

入館料 大人 400円
小中高生200円

※旧近衛文麿別荘(市村記念館)も入館できます。



(ポール・ジャクレー
軽井沢の自宅前で 昭和27年
写真 遺族提供)

文化講座

と き 9月3日(土)
13時30分から
15時まで

と ころ 中軽井沢図書館2階
多目的室

演 題

「軽井沢で太平洋戦争を生きた延びた外国人たち」

軽井沢に集められた経緯、戦時下の暮らし、そして戦後(予定)

講 師 高川 邦子氏(翻訳家)

定 員 30名

対 象 中学生以上

参加料 無料

※8月15日(月)9時より電話・窓口で受付開始

※新型コロナウイルスの感染状況等により、変更または中止となる場合があります。

【申し込み・問い合わせ】

歴史民俗資料館

☎42-6334